

第2回愛知県商業・地域貢献活動懇話会 議事概要

日時： 2023年10月13日（金）午前10時30分から午前11時55分まで

場所： 愛知県三の丸庁舎 8階 801会議室

出席者：10名（伊藤委員、鶴飼委員長、加藤委員、金山委員、西脇（委）委員、
西脇（正）委員、野尻委員、長谷川委員、本多委員、渡邊委員）

<議事>

- （1）商業者等による地域貢献活動の推進に関する条例（仮称）の骨子案等について
- ・資料1～3に沿って事務局から説明後、意見交換

（主な意見）

- ・ 同様の条例がある他の地域でも、ホームページやチラシ作成を行っているが、条例に関する市民の認知度は低い。商業にはそれだけ関心が低いということである。条例施行後どのようにPRするか、どのような周知方法が効果的なのか考えていく必要がある。
- ・ 既存の商店街振興組合の枠や商業だけのフレームにとらわれず、地域の多様な主体が連携する仕組みを具体的に考えていくべき。仕組みを具体的に想定し、モデル事例を作っていく必要があると思う。
- ・ 地域貢献計画を見たが、一定のフレームがあって書いてあることは皆ほぼ同じである。そこから一步踏み込んで地域のためにどう貢献するかという能動的な展開にはなっていない。地域の多様な主体と連携すれば、もう少し地域に根差した文言や活動内容が出てくる気がする。
- ・ 地域商業関係団体への加入等により相互に連携するよう努める、といった文言は、若い商業者やスタートアップにとっては、地域貢献はしたいが団体加入の費用負担を重荷に感じる人もいると思う。例えば、団体への加入その他の方法により、など他の手法もあることを明確にしたほうが、商業者の力に合った相互連携が図られる合理的な言葉になると思う。

- 地域貢献活動を実施していくには、中核的な推進役が必要。核となって責任を持って推進していく組織としては経済団体が適任であると考えている。多様な選択肢はあってよいと思うが、そういう意味では、加入等に触れていただく文言は組織の後押しになる。
- 地域貢献活動については、商業者による地域のイベントなどのイメージを持っている人が多いが、災害時の対応や高齢者支援など、様々な形がある。地域で商売するからには地域に貢献をすべきであり、バラバラにプラットフォームを作って活動するよりも、経済団体に加入してもらったほうがやりやすいし、入っているという意識が大事。また、加入していないと実際やらないというのが現実。
- 地域貢献は必要だが、様々な価値観の人がいるので、選択肢としては色々あったほうがよい。団体に入るべきという特定のイメージにならないよう少し幅広な形でないで、次世代にわたって繋いでいけないと思う。
- ロードマップを描く、モデル事例を作るなど、取組を具体化しないと条例施行後の実効性は上がらないと思う。若い世代の意見も聞けると良い。
- 地域商業関係団体へ加入しなくても、個々でしっかり地域貢献活動をしたい商業者もいると思う。団体の組織率を高めて地域全体で活動することは重要だとは思いますが、そうした人たちへの足かせとならないような配慮が必要。
- 地域商業関係団体の組織率を上げるのは非常に難しく、課題に感じており、この条例を通じて、県民だけでなく商業者へも団体加入についてのPRになるとよい。行政の支援は団体を通じてするのが一般的である。
- 地域貢献活動の推進を図っていく上では、財政的な支援も必要となることが考えられる。県としてもご検討いただきたい。大型店に対するインセンティブもあると良い。
- 商業者等が地域貢献活動にするにあたっては、様々な関わり方、参加の仕方があるというのは大前提である。具体的にどうしていくのかは、その地域でのケース・バイ・ケース、多様性があり、柔軟に考えていく必要がある。
- 今日の論点をしっかりと整理しながら、幅広い当事者の意見を聞けるパブリックコメントになることを期待している。